

春の彼岸によせて

平成十九年三月 大乘寺 住職 岡 光俊

最近、夫が定年退職してから死を迎える妻が増えるという記事を目にした。今まで家にいなかった夫が一日中在宅していることからくるストレスが原因らしい。

このことを皆さまは、どのようにお感じになりますか。

寺に相談にみえる女性の多くが夫に不満を持っていることや、妻が重大な悩みを抱えていることをまったく知らなかったり、気にも止めようとしない夫の多いことを思うと深く納得する。これは時代や社会背景が原因と評するかたもいるが、そうではないようだ。

人のストレスは、自分が理解をされていない、受け入れてもらっていない、認めてもらっていないという意識の中で生まれる。

夫婦だから話さなくても解ってくれるものと高を括っている夫。話し合いがないことによる、思い込みや憶測から誤解に発展していくことが多い。夫婦であればこそ心の苦しみや悲しみ、痛みや訴え、悲鳴を聞こうとする努力が必要ではないだろうか。離婚を胸に秘めて時期を待っている妻の多さを知っている夫はいるのであろうか。そしてその危険を回避しようと努力しているのであろうか。夫の定年以前にも、このストレスから精神性アレルギーや喘息、ノイロージェ等の病に陥っているかたを多く見る。

またこれは夫婦だけの問題に止まっていらないことに気がついて頂きたい。今日まで「彼岸によせて」でお伝えしてきたように、妻がそれだけストレスを日常的に抱えていることは子供に常に向けられているからである。このストレスエネルギーの及ぼす影響の大きさは計り知れないものがある。ストレスが恐ろしいのは、姿を変え形を変えて、あらゆる場面や時間に顔を覗かせたり潜伏するからである。ストレスを持つと周りを見る余裕がなくなり、子供の心を見たり感じたりできなくなる。すると子供もストレスを持ち始める。ス

トレスを持った子供は心を閉ざす為、その時期からの心の成長は止まってしまふ。同居していると、この影響を義母や義父が受け、家庭が暗くなり会話がなくなる。家庭内の悪循環の始まりである。そのような家庭で育った子供たちは結婚に対し消極的である。子供が将来に希望や夢を持ってない原因が家庭にある。親の背中が希望に溢れ楽しく明るくないから。

ここまでお伝えすればお解り頂けますように、夫婦の心の不一致は、子供の将来をも歪めているのです。

佛事は、高齢になり佛さまの世話をしなければならなくなつてからすればよいというかたがおられますが、人生、不幸な結果を迎えてから、佛さまの教えに会つてもまったく意味はありません。命の不思議さ、出会いの尊さ、縁の無限さ、人としての生きかた、人生や社会に疑問や難しさを感じ始めたら、佛さまの教えに耳を傾けるときです。

彼岸とは、迷いの此の岸から悟りの彼の岸へ、という意味です。夫や妻のことで日々悩み苦しみ、相手に不満を持つ此の岸から、佛さまの教えにより自分の間違いに気づき、安穩な心で相手を見つめ、夫婦が互いを尊敬できる姿が彼の岸です。

連れ合いに先立たれた悲しみの此の岸から、佛さまの教えにより成佛の経巻を頂くことで、日に日に共に過ごすことのでき得た縁に感謝と喜びの心で過ごせる姿が彼の岸です。

縁なく夫婦となり得なかつた方々は、周りのせいにする此の岸から、佛さまの教えにより縁の不思議さを教えて頂き、日々精進の大切さや己の至らなさに気づき楽しく努力する姿が彼の岸ということです。

自身の人生を嘆いている此の岸から、お経を読みこの世はすべて因縁因果の法則に従うということを深く学び、原因を自身の中でより多く探し、改心することが彼の岸の姿です。

このように人生の早い時期に佛さまの教えを実践していくことによりストレスのない人生が歩めるのです。

人間、一人として同じ考え、同じ人生はありません、そのような人間でも佛さまの教えは、何人にも当てはまります。それは、この娑婆世界に存在するものすべてが、因縁因果の法則で動いているからです。人間が中心ではないこと、人間が法則を作っているのではないこと、人間の思いで娑婆世界は動きません。

お経は、特別な人に特別な権威を与えるために残されたものではありません。

佛さまは一人の賢者を望まれてはおられません。人の驕りによる差別、そこから引き起こされる争いや葬りの卑しい心が収まり、すべてのものが必要不可欠な存在となることを望まれておられるのです。

春の彼岸、経文を読み佛さまの知恵を頂き、改心し、尊敬し互いの人生を生かし切るその努力を、墓前で約束することも大切ではないでしょうか。